

営農情報

農家の皆様へ

～いもち病に注意～

葉いもちの早期発見を！！

現在、梅雨の影響で、東びわこ管内において葉いもちの発生が確認されています。

今後の天候によっては、さらに葉いもち病の増加はもとより、穂いもち病への進展につながる可能性が高まります。

葉いもちが発生しやすい圃場(雑草地や過繁茂・日当たり風通しの悪い圃場)など一度圃場巡回を頂き早期防除に努めてください。

また、**育苗箱施用剤を施用していない圃場はさらに注意が必要です。**

育苗箱施用剤を散布していても、気象条件等によっては発生が懸念されますので、必要に応じていもち病の薬剤散布を行いましょう！！

※環境こだわり農産物栽培についても、発生状況によっては周りへのいもち病感染拡大による収量の減少につながるため、環境こだわり農産物申請を取り下げること検討してください！！

いもち病の防除剤

薬剤名	適用病害虫	希釈倍率使用量	使用時期	10a当り 使用回数
ブラシン粉剤DL	いもち病・稲こうじ病 ごま葉枯病・内穎褐変病など	3～4kg	収穫7日前 まで	2回以内
コラトップ粒剤5	いもち病・もみ枯細菌病	3～4kg	葉いもちに対しては 初発10日前～初発時 穂いもちに対しては 出穂30日前～5日前ま で	2回以内

※コラトップ粒剤5については予防剤となります

東びわこ農業協同組合

本田における葉いもち病・穂いもち病

★葉いもち病



葉いもちより進展した
穂首いもち



★穂いもち病



ウンカに注意 !!

本年度は梅雨入りが早くトビロウンカについて例年のない早い時期に、西日本を中心に確認されています。トビロウンカは体長が3~5mm程度の害虫で、水稻の茎から水分や養分を吸い取ることで稲を弱らせます。トビロウンカの数が増えると被害が拡大し、圃場内でまとまって枯れる『坪枯れ』症状を招きます。

またウンカは3カ月程度かけて世代を繰り返し、収穫期頃に被害が拡大します。これからの注意点としては、株元付近にウンカがいないか確認すると共に、本年度は本田防除剤(7月下旬~8月中旬頃の地上防除)をしっかりと行い、発生量の減少に努めることが重要です。

↓株元に群がるトビロウンカ成虫



10a当り

薬剤名	使用方法	散布量	使用時期
スタークル粒剤	散布	3kg	収穫7日前まで